

山口県教育

Education of the Yamaguchi prefecture

明日を拓く — 成果を検証する —

3



平成30年度 第71回山口県学校美術展 推奨作品
「花とまり」

宇部市立厚南中学校 2年生 (受賞時) 神田 結海

■シリーズ「人・任・仁 ③」 ～明日に向かって～

■卒業式に込める思い

下松市立豊井小学校 校長 武居 利彦
下関市立文洋中学校 校長 横内 淳

■たびだち

山口市立小郡中学校 3年 埜谷のぞみ
山口市立小郡中学校 保護者 埜谷こずえ

■ありがとう わが学校

下関市立角島小学校 6年 徳田 優
下関市立阿川小学校 6年 塚本 詠亜
下関市立粟野小学校 6年 内田 樹
下関市立滝部小学校 6年 廣田くらら
下松市立米川小学校 6年 伊内 愛董
柳井市立柳井南中学校 3年 齋藤 慧尚

■ご案内

一般財団法人 山口県教育会

〒753-0072 山口市大手町2-18 TEL 083-922-0383 FAX 083-922-5768

URL <http://www.ykyoikuk.or.jp> E-mail ykyoikuk@ruby.ocn.ne.jp

明治36年4月第1号 毎月1日発行 発行人 会長：倉増誠彦／編集長：山本晃久

あなたのアクションは…

山口県教育会がすすめる
「元気やまくち」三つのアクション

- ◎あいさつ 返事で 明るいやまくち
- ◎笑顔でつなく 安心やまくち
- ◎ゴミ 落書きのない 美しいやまくち

シリーズ「人・任・仁③」

～明日に向かって～

卒業式に込める思い

いま生きていくるよるよる



下松市立豊井小学校
校長 武居利彦

本年度の卒業生は九人。

卒業式では、いろいろな人物の言葉を借りて、卒業生一人一人にこれからに向けたメッセージを届けたいと思っています。その骨子は、『生きていくということ』は『いま生きていくということ』に尽きます。



卒業生にメッセージを贈る
（「卒業生を送る会」より）

生きる

次の詩は、谷川俊太郎さんの「生きる」という詩の一連です。

生きていくということ
いま生きていくということ
それはのどがかわくということ
木もれ陽がまぶしいということ
ふっと或るメロディを思い出すということ
くしゃみすること
あなたと手をつなぐこと

この詩から、『今、あなたはどのくらいの人と「手をつなぐ」ことができていますか。これから、どのくらいの人と手をつなげそうですか』と語りかけたいと思います。「手をつなぐこと」ができる力は、何より大切です。手をつなげば、脳に「安全基地」ができるからです。十の安全基地があれば、十の挑戦ができます。たくさんの人と手を携えて未来を生きてほしいと

願っています。
ある時、次の場面に出会いました。

・九十八歳の女性が、玉音放送を聞いて泣いている二十四歳の自分へ励ましの言葉を贈るところ
・百二歳の現役髪師が、仕事を始めた十七歳の自分に「いまだに腕が評判なのは、あなたが修行の手を抜かなかつたおかげだ」と語りかける場面

どんなに苦しい過去であっても、がんばっている今があれば、それは肯定されます。「いま生きていく」という実感から、来し方行く末は意味付けられるのです。私は、子どもたちが、今生きていくということをおぼえてしまうくらいがんばっているあなたが、そのときどきにいるということをおぼえてほしいと思います。

一期一会

作家の森下典子さんは次のように言っています。

会いたいと思つたら、会わなければいけない。好きな人がいたら、好きだと言わなければいけない。花が咲いたら、祝おう。（中略）嬉しかったら、分かち合おう。
幸せな時は、その幸せを抱きしめて、百パーセントかみしめる。それがたぶん、人間にできるあらゆるかきりのことなのだ。
だから、だれに会えたら、共に食べ、共に生き、だんらんをかみしめる。（「日は好日」）

不安はこれからへのやるせない思い、後悔はこれまでへの恨み言です。だからこそ、子どもたちには、一

期一会の今を愛しみ、かみしめて、今の景色を変えてもらいたいと思っています。

また、かのイチロー選手は、

小さいことを重ねることが、とんでもないところに行くただひとつの道だ。今、自分に行けること、がんばればできそうなこと、そういうことを積み重ねていかないと、遠くの目標は近づいてこない。

と言っています。

この言葉から、私は、小さなことでも、今に実意を尽くすことがあなたの未来を切り開くということをお伝えしたいと思います。

ネクストワン

ある人が、九十歳を超えた画家ピカソに、こう尋ねました。「数あるあなたの名作の中で、最高傑作はどれですか?」ピカソは、「ネクストワン（次の作品です）!」と即答しました。

ピカソの衰えを知らぬ旺盛な創作意欲に驚かされます。また、底抜けに明るい前向きなエネルギーに勇氣付けられます。

そのときの最高の力が発揮できたところで、次の課題が見えてきます。一つ謎が解けると、また新たな謎が生まれてきます。「もつとやってみよう!」「もつと知りたい!」そう呟いたとき、子どもは新たなステージに立ち、見たことのない地平を見ようとしています。歓喜に沸き立つときも、失意に溺れそうなきも、「ネクストワン!」と自分に呟いてほしいものです。

そして、こう言つて「贈る言葉」を締めくくりたいと思います。「出合いの素晴らしきこと 幸多からんことを 心から願います。卒業 おめでとつございます」。



祝 卒業証書授与式

晴れやかな笑顔で（平成31年3月）

巣立ちゆく 卒業生たちへ 志をもつて、たくましく伸び続けよ



下関市立文洋中学校

校長 横内 淳

三月の風温かな日、丘の上の本校正門に続く坂道を元気に登校してくる生徒たちの姿を目にすると、心に浮かぶ一句がある。

「春風や 闊志抱きて 丘に立つ」（高浜 虚子）

私は、若い頃から、中学校時代の生徒の成長の素晴らしさ、まさに入学時の「子ども」が「たくましい若者」に成長して卒業していく姿に感動を覚え、中学校教員のやりがいを感じてきた。

我が志に描いた生徒の姿

校長として勤務した学校で目指したのは、生徒に「変化の激しい時代に、たくましく学び続ける」力を育てることであった。義務教育後半の若者たちに、次代を担う力をつけさせたいという思いからに他ならない。

そのために、「基本的な生活習慣の定着」「学力向上」「人間関係づくり」といった生活の土台固めから、「地域に出ての活動」などの机の上ではできない学習まで、広範囲な取組を推進した。また、小学校と連携した九年間のカリキュラム作成など、キャリア教育の推進を旨としたことが思い起こされる。振り返れば、一緒に



卒業の春、桜と校舎

頑張ってくれた先生方へ感謝するばかりである。

卒業式に向けて

卒業式はどのような日であろうか。生徒にとつて、ここまでの成長を感謝と共に振り返る日、見守る全ての人々に、様々な思い出が浮かび続ける日、そして、学校にとつては、三年間の教育活動の集大成の日、卒業式には様々な思いが交錯する。

私は、卒業式は、三年生にとつて中学校での最後の授業であることを忘れないようにしている。主役は生徒と捉え、卒業生が決意をもって新たな道へ歩み出す場にしたい。さらに、保護者や地域の方々が、旅立つ若者を温かく見守り送り出す式でもありたい。そのような卒業式を願つてきた。



旅立ちの舞台上で祝辞を受ける（平成30年度卒業式より）

式辞に願いを込める

式辞を思うとき、晴れの門出に、卒業生へ直接メッセージを届けることができることを心からありがたく思うとともに、その重責も感じている。「志をもつて成長し続けて欲しい」と願いをこめ、巣立ちゆく若者へのエールとなるよう、私は式辞の最後には、必ず、校歌の歌詞を織り交ぜながら、卒業生へ呼びかけることにしている。

本年度の式辞に込めた呼びかけを紹介したい。私の願いは、ここに集約されている。

「ふるさと下関」発展の中核となったこの地に育ち、たくましく成長してきた若者達よ。慣れ親しんだ学び舎には、毎日、「まことの道を究めつつ、厳しき技に克ち行かん」君たちの姿があった。全員で創りあげていったものは、学年を越えた交流を続け、自分たちで考え抜いた生徒会活動を練り上げ、全力投球で学校行事を成功させていった学校生活だった。振り返って欲しい。君たちは投げられた思いに、どのように応えていただろうか。

そして本校が、様々な取組を通して君たちに身に付けてほしいと願ったものは何であったのか。卒業の今、君達にこれを問いたい。

今日、その答を心に刻み、次なる「文洋開花」めざして、希望とともに飛び立て。順風の日もあろう。嵐の日もあろう。けれど、文洋健児は、いつの日も、「力溢る躍動の」若人たらんと願う。新時代「令和」幕開けの年、時代の節目に、義務教育を終え次のステージへ旅立つ。その意義を忘れることなかれ。道は分かれても、「心の友よ 永遠に」、「母校の誉れ」を胸に「伸び行く彼方」へ歩み続けよ。

「弥生が丘に 集いきし」若者たちが、「ふるさと下関」の更なる隆盛を築くと信じている。

（「太字」は校歌の歌詞を引用した部分）
令和元年度卒業式 式辞より（抜粋）



自分に厳しく

山口市立小郡中学校

三年 坪谷 のぞみ

「人に厳しく、自分にもっと厳しく」これは、中学二年生のときに吹奏楽部の副顧問の先生に言われた言葉だ。卒業の時期を迎え、この中学校生活を振り返ってみたが、私はとても成長することのできた三年間だったと思う。

特に部活の吹奏楽部では、心も体も鍛えられた。一つの音楽を作るうえで、自分ができないことが全体に影響することを知り、まずは、みんなについていくことで必死だった。周りと同程度の技術を身につけるためには練習を重ねるしかなかったが、楽器はすぐに結果が出るものではないので、なかなか成長しない自分が嫌になることもあった。だが、大会で、練習した分だけ自信をもって本番に挑めるという楽しさを味わい、くじけずに自分と向き合っていくことができた。

また、部活の忙しさを理由にほかのことへの手を抜くのは嫌だったので、勉強や生徒会も全力で取り組んだ。部活の大会とテスト期間が重なり、時間のやりくりが難しいこともあったが、日々の勉強を大事にして、しっかりと両立してきた。生徒会でも、六百人以上の生徒を引っ張っていくことの大変さを経験し、たくさんのかんがえが学ぶことができた。

私は、春から県外の高校へ進学す



マーチングコンテスト中国大会でドラムメジャーを務める

る。部活も勉強も両立はさらに難しくなると思うが、親元を離れることを言い訳にせずに頑張ろうと思う。これからも、人に厳しくできるくらい自分に厳しくし、自分を鍛えていきたい。そして、成長した姿で山口に戻って行くことができるようにしたい。



一番のサポーター

山口市立小郡中学校

保護者 坪谷 こずえ

娘の中学生生活三年間は「吹奏楽の部活動と学業、校内行事との両立」その一言に尽きます。

小学校で経験のあるメンバーも多い中に飛び込み、皆を追いかけるのが一杯で、足を引っ張っているのでは、と悩んだ時期もありました。つらい練習に音をあげそうな時期もありました。それでもコンクールなどの舞台での達成感は半端ないもので、またこの感動を味わいたいと次の目標に向けひたむきに頑張っていました。多忙の中、学業はもちろん生徒会や校内行事も意欲的に取り組む姿を見てきて誇らしく思っております。

三年の秋、進路について考える時期になると、あまりにこの三年間が楽しく充実していたのでしよう、燃え尽きたのもあるでしょう、「卒業したくない」「ずっと中学生でいたい」と後ろ向き発言をするようになり驚きました。私は娘の頑張る姿を見ていることが大好きで、応援しかできないのですが、「一緒に悩みながら現状を整理するよう関わりました。ちょっとだけ勇気を持って前を向けるよう背中を押すことができたでしょうか。」

春から娘は山口の地を離れ、あえて困難な道を進もうとしています。私は娘の一番のサポーターとして、さ



第67回全日本吹奏楽コンクールにて

らなる挑戦を少し遠くから見守り続けていこうと思います。卒業にあたり寂しい思いは募るばかりですが、充実した三年間に感謝の気持ちで一杯です。ご指導頂いた先生方、一緒に頑張った仲間と保護者の方々、本当にありがとうございました。



つながる心は消えない

下関市立角島小学校
六年 徳田 優

角島小学校が閉校すると聞いた時、「どうして多くの学校が？」と驚きました。島の人たちも先生方も、本当は閉校して欲しくないと思っっていると思います。同時に、ぼくたちが最後の卒業生になるのだから、「立派に卒業しなければ」とも思いました。みんなに「今までありがとう」という気持ちを伝えなければならぬし、それを行動で表さないといけないと思います。

そのためにも、閉校までに角島小学校のチャレンジ目標を達成しなければと思っています。全校が一つになって目標を達成できるように、登校班の班長やまゆう班の班長としての役割をきちんと果たしたいと思っています。ぼくが特になんぼつてきたことは、毎日十人以上の人と交わす「あいさつ運動」と「達筆計画」です。地域の人たちのあいさつ十人が達成できなかった時は、学校のみならず、美しい字を書けるように練習を続けました。お母さんから「字がきれいに書けるようになつたね」とほめられて、もつと上手になりたいと頑張ることができました。閉校式まで必ず続けようと思っています。

学校にはいろいろな行事がありました。



大漁旗の下での、島のみなさんの力強い綱引き(運動会での一コマ)

保護者や地域のみなさんともちつきをしてお雑煮を食べたり、グラウンドゴルフを楽しんだりしました。みんなで食べたお雑煮の味は忘れられませんし、地域の人たちと一緒に楽しんだ運動会は、ぼくの心に一番残っています。行事がある時には、朝早くから保護者や地域のみなさんが集まって、準備をしてくださいました。先生方は毎日、いっしょに授業をしてくださりました。いつも温かさを感じていました。ぼくたちの心のつながりはこれからも消えることはありません。これからも見えるさと角島を大切にしていきたいと思っています。



「阿川PRIDE」を忘れない

下関市立阿川小学校
六年 塚本 詠亜

百四十七年もの歴史をもつ阿川小学校が、歴史の幕を閉じることとなりました。毛利の流れを受け継いだ、祖父も母も通った思い出のたくさんつまった阿川小学校です。

本年度の阿川小学校の合言葉は、「阿川PRIDE」です。この言葉には、阿川つ子としての誇りをもつて、みんなで力を合わせて何事にも頑張つていこうという思いが込められています。この言葉を胸に過ごした二年間でした。特に心に残っているのは、音楽祭です。六年間参加しました。音楽専科の先生が、ずっと指導してくださいました。先生は厳しかったけれど、優しく、そして楽しく、ぼくたちに音楽の楽しさやすばらしさを教えてくださいました。合奏は、いつも難しい曲に挑戦し、何度も何度も練習しました。自分の練習したパートが、みんなと合わせた時に、一つの曲になっていくのが、本当にすごいと思いました。全校みんなで創り上げる感動を味わうことができました。

今年度の音楽祭では、曲の初めの鍵盤ハーモニカのソロを任せられました。先生から、ピカピカの特別な鍵盤ハーモニカを手渡されたとき、絶対に成功させようと思いました。本番では、緊張したけれど、保護者の方や地域



下関市小学校音楽祭

阿川小最後の音楽祭

の方に見守られ力を出し切ることができうれしかったです。阿川小学校は、いつも保護者の方や地域の方、そして先生方に見守られています。毎日の登校では、「おはよう」、「いつてらっしゃい」とたくさんの方に声をかけていただきます。また、暑い日も寒い日も、校長先生と一緒に歩いてくださいます。ぼくたちが、毎日楽しく学校生活を送れたのもそんな支えがあったからだと思います。関わってくれた全ての方々に感謝の気持ちをもち「阿川PRIDE」の志を忘れず未来へ一歩、踏み出したいです。



ありがとう栗野小学校

下関市立栗野小学校

六年 内田 樹

栗野小学校での最大の思い出は、地域の方とたくさんふれ合えたことです。

栗野小には、地域の方と一緒に行事や、地域で勉強する機会がたくさんありました。中でも、最も心に残っているのが、「青のり採り」です。船に乗せていただいて、サライという道具で、川底の青のりをすくい上げます。三年生の頃までは、たくさん採れたときには、重くてバランスをくずしてしまいそうでした。採った後は、それを洗います。何本も張りめぐらせた縄に、青のりをつぼねて（かけてしぼって広げて）いきます。乾いてくると、とてもよい香りが学校中に広がります。

ぼくたちも、地域に貢献したいと考え、栗野駅を憩いの場にするプロジェクトを四年前から始めました。その一つが「ふれあいフェスタ」です。駅で、地域で学んだことを発表したり、おもてなしをしたり、野菜市を開いたりしました。いつもたくさんの方が笑顔になってくれるので、すごくうれしかったです。最後の今年は、百人をこえる人が来てくださって、とても盛り上がりました。

もう一つの思い出は、月に一度の「わくわく教室」です。ここでは、地域の方と一緒に遊んだりゲームをしたりします。八人しかいない学校なので、



栗野川の「青のり採り」

地域の人達と大人数するときには、とても楽しかったです。昔の遊びなどもたくさん教えていただき、できる遊びが、どんどん増えていきました。栗野小は、地域全体が学校のようなところなんです。地域が学校なら、地域の方は先生です。そんな学校で六年間過ごすことができ、とてもうれしかったです。みんなに感謝しています。



ありがとう瀧部小学校

下関市立瀧部小学校

六年 廣田 くらら

私は、今年、瀧部小学校を卒業します。それと同時に、この瀧部小学校は閉校し、「豊北小学校」に生まれ変わります。瀧部小学校は私、兄、祖父、おば、母の母校です。

昔の通学路には、たくさんのお店があり、にぎやかだったと聞いたことがあります。今では、お店をしている所も少なくなりました。でも、私たちの通学路には、交通指導員の方や駐在所の方、地域の方がいつも気にかけて見守ってくださっています。おかげで、毎日安心して小学校に通うことができました。

十人にお先にあいさつ

気持ちよく

これは瀧部小の今年のスローガンです。毎日の朝の会では、「おはようございませう」という言葉でつなぐ「あいさつリレー」を行っています。どのクラスからも、元気な声が響きます。

瀧部小学校には、冬に「元氣ファミリーフェスタ」という行事があります。昔ながらの遊び竹馬や、かつぽん、羽根つき、もちつきをしたり、しめ縄かざりを作ったりします。地域のおじいさん、おばあさんに色々聞き、教えてもらい、昔を感じることもできる行事です。つきたてのおもちと、お父さんたちの作ってくれた鍋は最高におい



伝統行事の一つ「新春俳句相撲大会」

六年間の思い出が詰まった瀧部小学校から卒業し、四月からは中学生になります。これまで私たちを支え、見守ってくださいましたすべての方への感謝の気持ちを忘れずにがんばります。

しかつたです。教えてもらいながら作ったしめ縄かざりは、毎年、お正月に私の家の玄関にかざります。私が一番楽しんだのは、冬の持久走大会です。苦しいとき、みんなに応援してもらえることがうれしくて必死で走ったことは、特に思い出に残っています。

ありがとう米川小学校



下松市立米川小学校

六年 伊内 愛董

僕はこの米川小学校で六年間過ごすことができ本当に良かったと思います。米川小学校は三つの学校林があり、校舎のすぐ横には「山の子川」が流れる自然豊かな場所にあります。僕はその小川でよく遊びました。水辺にはたくさん生き物がいて、ヤゴや、カワニナ、トビケラ、サワガニなども生息していました。そんな生き物を捕まえたり、観察したりするのがとても楽しかったです。低学年の時に僕たちはよく校庭で、チョウを捕まえて遊びました。みんなで協力し、その辺りにいるすべてのチョウを捕まえ、一斉に放したときのあの感動は今でも鮮明に残っています。

豊かな自然を生かした行事には、春は山菜採り遠足、夏は水辺の教室、秋は栗拾いや芋堀り、冬にはワカサギ釣りなどがあり、素晴らしい思い出になっています。

また僕の学校は地域とのつながりが強く、協力して行事を行います。特に運動会では地域の方々が楽しい競技を企画、運営してくださったり、道具の準備もしてくださったりします。そして競技には卒業生や地域の皆さんが出演し、笑顔あふれる楽しい運動会になります。僕たちは毎年、一輪車の演技やよさこいを披露します。



たくさんの 笑顔と縁の わが母校(愛董)

みんなで力を合わせた運動会

演技の後にはみなさんが「かっこよかったです」といつもほめてくださるのがうれしかったです。運動会で勝つても負けても清々しい気持ちになるのは、地域がひとつになって、みんなで作り上げる運動会だからだと思います。僕がこれまで楽しく充実した学校生活を送り、多くの思い出ができたのは、温かい地域の方々や先生方の支えがあったからです。休校式には、皆さんへの感謝の気持ち大切にして臨みたいと思います。そして、この素晴らしい学校を卒業できたという誇りを胸に、春から新しい環境でがんばっていきたいと思います。

僕たちの誇り 柳井南中学校



柳井市立柳井南中学校

三年 齋藤 慧尚 (生徒会長)

僕たちの大好きな柳井南中学校が三月で閉校になる。二年前、突然の決定と、以後二年間の新入生はどちらかの中学校を選んで入学できる、という決定を聞いた僕たちは、その年の生徒会スローガンを全校生徒四十五名で「根幹 苦難乗り越えさらなる高みへ」に決めた。

僕たちの中学校生活は本当に楽しかった。みんな仲がよく、よく笑いに話せた。以前から地域の方々といふあう行事が多く、通学途中に見える美しい海を生かして、地元の漁業協同組合の方が毎年「アマモ学習」や「魚料理教室」を開いて命の大切さを教えてくださった。「乳幼児とのふれあい学習」は十年以上続いた。

閉校が決まってからは、「この学校は、誰もが行きたくなる誇れる学校だ」という実感が日毎に強くなっていた。最後の体育祭は生徒全員で話し合い、保護者・先生・卒業生の三チーム対抗戦に変更し、最高の体育祭ができたという胸を張って言える。文化祭も二日間に拡大して、地域の方々への感謝の気持ちを届けた。

僕たちが先輩から引き継いだ伝統の一つに「合唱」がある。柳井市の音楽会では、市内で唯一「アカペラの四部

合唱」に挑戦した。「柳井南中学校よ永遠に！」というメッセージを歌声に込めるために、一年間かけて全員が全力で練習に取り組んだ。

四月、新しいスタートをきった僕たちが母校を訪ねたとしても、そこに先生や後輩の姿はない。でも僕たちが引き継いだ歴史と伝統、母校への誇りは決して消えずに、必ず僕たちの毎日を応援してくれる。苦しい時、家族はもちろん地域の方々や出会った先生方、ふるさとが僕たちの味方だ。そんな自信を持たせてくれた柳井南中学校が僕たちは大好きだ。

ありがとう 柳井南中学校！
柳井南中学校よ 永遠に！



合唱に学校への思いを込める

案内

入会のご案内



情報紙「山口県教育」



第10回青年教師の集い(理科)



第71回日本連合教育会研究大会
滋賀大会(分科会発表)



第18回やまぐち教育の日
第47回教育県民大会 柳井大会



第11回「わたしの志」作文
入賞者表彰式

子どもも大人も夢をもって生きる豊かな学校や地域の創造にあなたの力を!!

あなたの会費を
こんなことに役立てます

学校(園)の教育活動を支援します

- ・個人、学校(園)、グループ、サークルへの研修助成(コミュニティ・スクールの充実を含む)
- ・「青年教師の集い」の開催

地域活動を推進します

- ・「やまぐち教育の日・教育県民大会」の開催
- ・地域協育ネットの活動充実のための助成
- ・地区別教育振興フォーラム、史蹟探訪等の地域活動助成

伝統文化を継承します

- ・「金子みすゞ賞」童謡詩募集
- ・「わたしの志」作文募集
- ・地域の文化遺産や伝統文化の継承活動助成

情報紙「山口県教育」を発行します

- ・会員相互の情報交流

詳しくは、ホームページをご覧ください
<http://www.ykyoikuk.or.jp>

入会にあたって

1 対象

- ・保育園・幼稚園、学校等の現職教職員と退職者
- ・一般県民、学校(園)のPTA会員、教育関係機関の職員、諸団体の職員

2 会費(年会費)

- ・通常会員……………2,000円(初年度は1,000円)
- ・賛助会員……………3,000円
- ・終身会員……………50,000円(入会時のみ)

3 入会申込

- ・現職教職員の方は、学校(園)の担当者に
- ・一般の方は、(一財)山口県教育会事務局、または、各支部担当者に

(一財)山口県教育会(組織課)
TEL 083-922-0383
FAX 083-922-5768